平成27年度の発掘調査成果

い・せ・きワールドin前橋2016

元総社蒼海遺跡群（105）井戸跡から出土した茶臼

総社・元総社地区では、土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群の発掘調査を行っています。道路建設や造成工事によって遺跡が破壊される前に発掘調査を行い、昔の人々の暮らしの様子を調べるのです。今年も数か所で行った調査のひとつで、中世の井戸に捨てられた茶臼が見つかりました。このように、ほとんど完全な茶臼が、3つも残っているのはとてもめずらしいことです。

平成27年度の発掘調査

今年度は、主に前橋市西部の元総社地区で発掘調査を行いました。ここは、古代の群馬県の中心であった上野国府（こうずけこくふ）が置かれたところと考えられています。また、中世には群馬県で最も古いお城と考えられる蒼海城（おうみじょう）が築かれました。今年の調査では古代の竪穴（たてあな）住居や役所に関連する建物、中世の蒼海城に関連する堀跡や屋敷跡が見つかりました。

元総社蒼海遺跡群（105）

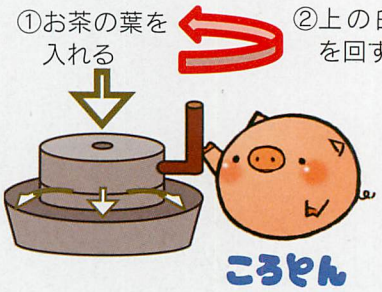
上：矢印で示した井戸跡から茶臼が出土しました。
左：井戸や柱穴などたくさん穴が見つかりました。

ここは表紙で紹介した茶臼が見つかったところです。東側と南側は深く掘られた蒼海城の堀跡があり、堀で囲われた部分は蒼海城の一画となっていたようです。井戸跡のほかに多数の柱穴（ちゅうけつ）が見つかり、蒼海城に関連する屋敷が建っていたと考えられます。また当時使われていた陶磁器（とうじき）類や石造物（せきぞうぶつ）も見つかっています。

茶臼の使い方

下の絵のように、上の臼の上の穴からお茶の葉を入れ、反時計回りに回します。上と下の臼の間には中心から外にむかって溝が掘ってあり、ひかれてこまかくなったお茶はこの溝によって中からでてきます。

出土した茶臼。横の穴に取っ手をつけて回します。



元総社蒼海遺跡群（107）

左：中央の矢印のところが長方形に囲われた炉の跡です。
上:矢印方向から見た鍛冶炉。両側と奥が土手状に囲ってありました。

ここでは、住居の床面が焼けて赤くなった炉（ろ）の跡が見つかり、鉄を鍛える際に生じた屑（くず）も見つかっていることから、鉄製品を生産するための鍛冶工房（かじこうぼう）跡と考えられます。工房跡の中央には、長方形の土手状に囲った中に複数の炉があって、鍛冶炉としてはとても珍しいかたちをしています。

○主な時代区分

西暦	紀元前10000	紀元前200	300	600	710	794	1185	1338	1573	1603	1868 年
	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治～
				古代			中世			近世	近・現代

元総社蒼海遺跡群（108）

この調査では、浅く掘られた古代の溝（みぞ）の中に、たくさんの土器が捨てられている様子が見つかっています。捨てられていた土器のほとんどは、当時の人々が使っていた杯（つき）や椀（わん）などの食器で、ほかにはベルトのバックルと考えられる鉄製品もありました。なぜ大量の土器やバックルが溝に捨てられたのかは、まだ分かっていません。

元総社蒼海遺跡群（110）

この場所からは、古代の竪穴住居跡がたくさん見つかりました。このほかに中世の地下式坑（ちかしきこう）と呼ばれる、四角く掘られた深い大きな穴が見つかっています。もともとは地下室でしたが、天井が落下してしまったことが、土層の堆積（たいせき）状況から分かります。写真の人が右手で探っている辺りから上に天井がありました。

元総社蒼海遺跡群（17街区）

左：中央のくぼんでいる部分が道の跡になります。
上：道を覆っていた土層の断面。白く凹（おう）レンズ状に堆積した層が浅間山の火山灰です。

ここでは、すぐ北側の牛池川にむかってスロープ状に降りていく溝跡が見つかりました。溝の底面には硬く締（し）まった土の層や石敷きがあることから、古代の道路の跡と考えられます。写真の土層断面に見える白い層は、浅間山が1108年に噴火したときに積もった火山灰です。このことから、この道路は1108年以前に使われなくなっていたことが分かります。

鳥羽収蔵庫資料展

平成27年11月8日に、鳥羽町にある文化財保護課鳥羽収蔵庫で展示会を開催しました。

元総社地区でいままで出土した遺物や、平成26年度の前橋市の調査で新たに見つかった遺物を展示しました。

当日は地元の方をはじめ、多くの方が見学に来てくれました。

展示会のようす

展示遺物（五代深堀（ごだいふかぼり）遺跡の縄文土器）

こうずけこくふとうはんいないようかくにんちょうさ
上野国府等範囲内容確認調査

元総社小学校での発掘調査

元総社小学校の校庭の調査も、今年度で３回目となりました。

実は、元総社小学校の校庭は、昭和30年代にも発掘調査をしたことがありました。そのとき、大きな掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）の跡が２軒見つかり、その後、遺跡は砂で保護しながら埋め戻してありました。

今年度の調査では、かつて遺跡の発掘をした場所を確認するために行いました。かつて遺跡を発掘した場所は、校庭の朝礼台の南のあたりと言われてきましたが、その辺りを発掘してみたところ、２軒の掘立柱建物のうちの１棟が確認できました。さらにその建物跡の東側で、新たに柱の穴が一つ見つかりました。この柱の穴は、新発見の建物の柱の穴、もしくは再調査された建物に取り付くへいの柱の穴ではないかと考えられます。

上：再び姿を現した掘立柱建物跡
右：新たに見つかった柱の穴

今年度の調査では、元総社小学校の調査では初めて一般向けの遺跡の現地説明会を開催しました。８月のお盆明けでもまだ暑い日差しの中、地元の方をはじめ、遠方から来場してくれた方も、熱心に説明を聞きながら遺跡を見学してました。

また、元総社小学校の５･６年生を対象とした見学会も開催されました。

ぞくぞく発見！

掘立柱の建物跡 見つかる！

元総社小学校のまわりでは、これまでも総社神社の境内や、そのまわりの家や畑で、その土地の所有者に協力してもらいながら発掘調査をしています。

今年度は、総社神社の西のあたりで発掘調査を行いました。そのうちの１か所の調査場所で、小学校で見つかった建物と同じような掘立柱建物の跡が１棟分見つかりました。

元総社小学校やそのまわりには、こうした大きな建物がまだまだあるかも知れません。

平成27年度　埋蔵文化財発掘調査一覧

遺跡名	所在地	主な時代
元総社蒼海遺跡群	元総社町・総社町総社	縄文・古墳・奈良・平安時代、中世
推定上野国府跡	元総社町	古墳・奈良・平安時代、中世
朝倉後閑水田遺跡	朝倉町・後閑町	平安時代
川曲地蔵前遺跡No.4	川曲町	平安時代
元総社中学校遺跡	総社町総社	奈良・平安時代

☆☆ 問い合わせ先 ☆☆
平成27年度の発掘調査成果
い・せ・きワールド in 前橋2016
前橋市教育委員会事務局文化財保護課
平成28年３月発行
住　所　前橋市総社町三丁目11－4
電　話　027－280－6511
FAX　027－251－1700
Eメール　bunkazai@city.maebashi.gunma.jp